

## 14

## 帯状疱疹について

医療の  
小ネタ

帯状疱疹の原因となるherpes zosterというウイルスは、水痘症（水ぼうそう）のウイルスと同じものです。水痘症は全身に水泡が出ますので、発病しても気づかないということはありませんが、ウイルスに感染しても症状の出ない人がたまにいて、これを不顕性感染と言います。

どのような経路を辿ったにせよ、人間の体内に入った水痘症のウイルスは、抗体に攻撃されない避難港のような所にずっと隠れていますが、人間の抵抗力や免疫力が落ちた時を見計らって、神経の走行に沿って炎症を起こします。

これが帯状疱疹です。

神経の火傷のようなものですから、痛いのは当然ですね。

外来でしばしば「帯状疱疹ワクチンは打った方が  
良いか？」という質問を受けます。結論から言え  
ば、「打った方が良い」ですが、やたら高い不活  
化ワクチンを打つ必要は無いと考えています。



一般的にはどんなワクチンでも、接種してしばらくすると抗体が作られて、目標であるウイルスや細菌を直接攻撃しますが、帯状疱疹に関して抗体の出来ることは、避難港に隠れているherpes zosterが出て来ないように見張る事だけです。

もちろんワクチンを打てば帯状疱疹を発症しても重症化させずに済みますが、幸いヘルペス属のウイルスには有効な抗ウイルス薬があります。運悪く発症しても、さっさと治療してしまえば良いのでは？

Herpes zosterの親戚にherpes simplexというウイルスがあります。1型と2型の2種類があり、1型は口唇ヘルペス、2型は性器ヘルペスの原因となります。いずれもherpes zosterよりもかなり弱いウイルスなので、抗ウイルス薬は帯状疱疹に使用する量の4分の1くらいですぐに良くなります。こちらも顔を出して来たら、さっさと治療してしまいましょう。